

小諸ロケの『男はつらいよ サラダ記念日』鑑賞記

上原 昇（2組）

映画『男はつらいよ』は昭和44（1969）年から平成7（1995）年まで、なんと26年間、48作続いた長寿シリーズで有名です。我々世代でいうと21歳の頃から47歳の頃までの期間になります。年2回、旧盆時期と年末年始時期に公開され、みんな寅さんと会うのを楽しみにしていました。

主人公の香具師、フーテンの寅さん（車寅次郎）は全国各地を巡って、毎度、そこかしこで騒動を巻き起こします。

48作中で長野県をロケ（舞台に）した作品は数多くありますが、特に1976年12月公開の第18作目『寅次郎純情詩集』は別所温泉を中心にしたロケで上田の地元でも話題となったようです。

同シリーズを半世紀以上経って再見すると、今では見られない懐かしい風景に出会うのも嬉しいです。

寅さんを演じる渥美清は1928年生まれで、1996年に68歳で亡くなりました。1980年代後半以降の作品は、渥美が病気をおして出演しているのが分かり、痛々しいので、観に行くのを止めたことを覚えています。

今回、渥美没後30年記念特集をやっている神保町シアターに足を運び、『男はつらいよ』シリーズ中、小諸市でロケをした作品を観る機会がありました。

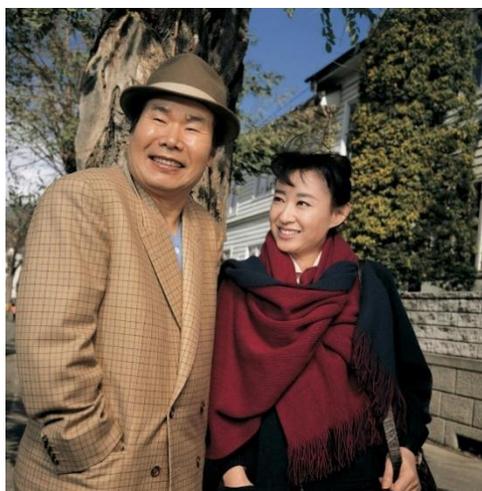
シリーズ40作目、昭和63（1988）年12月に封切られた、昭和最後の『男はつらいよ 寅次郎サラダ記念日』です。

映画の解説を見ると、小諸市内をメインに小海線、真田町傍陽などをロケ地にして撮影されています。小諸では、冒頭、健速（たてはや）神社（小諸市田町）の例大祭から懐古園門前での火煙太鼓保存会の演奏、建替え前の小諸病院（小諸市荒町）などのシーンが楽しめました。

小諸には、1995年に「こもろ寅さん会館」がオープンしましたが、事情があって2013年に閉館しているとのことでした。

本作で小諸病院の女医役を演じるマドンナ・三田佳子（1941年生）は1986年、放映されたNHK大河ドラマ「いのち」や、1988年から日テレで始まった「外科医 有森冴子」シリーズで女医役を得意としていました。

「男はつらいよ 寅次郎サラダ記念日」、渥美と三田



映画のタイトル『サラダ記念日』は1987年5月に発売されて大ヒットした俵万智（1962年生）の歌（短歌）集からとったもので、映画の中でも俵万智作と思える歌がいくつか披露されます。



神保町といえば本屋の聖地ともいわれる街です。老舗書店の三省堂神保町本店は2022年5月に閉店していましたが、3月19日にリニューアルオープンして、当日、13階建ての新ランドマークには大勢の客が押し寄せて大混雑でした。本好きの諸兄は一度、神保町に足を運んでみてください。

新装開店で賑わう三省堂書店神保町本店

(2026年3月22日記)

以上